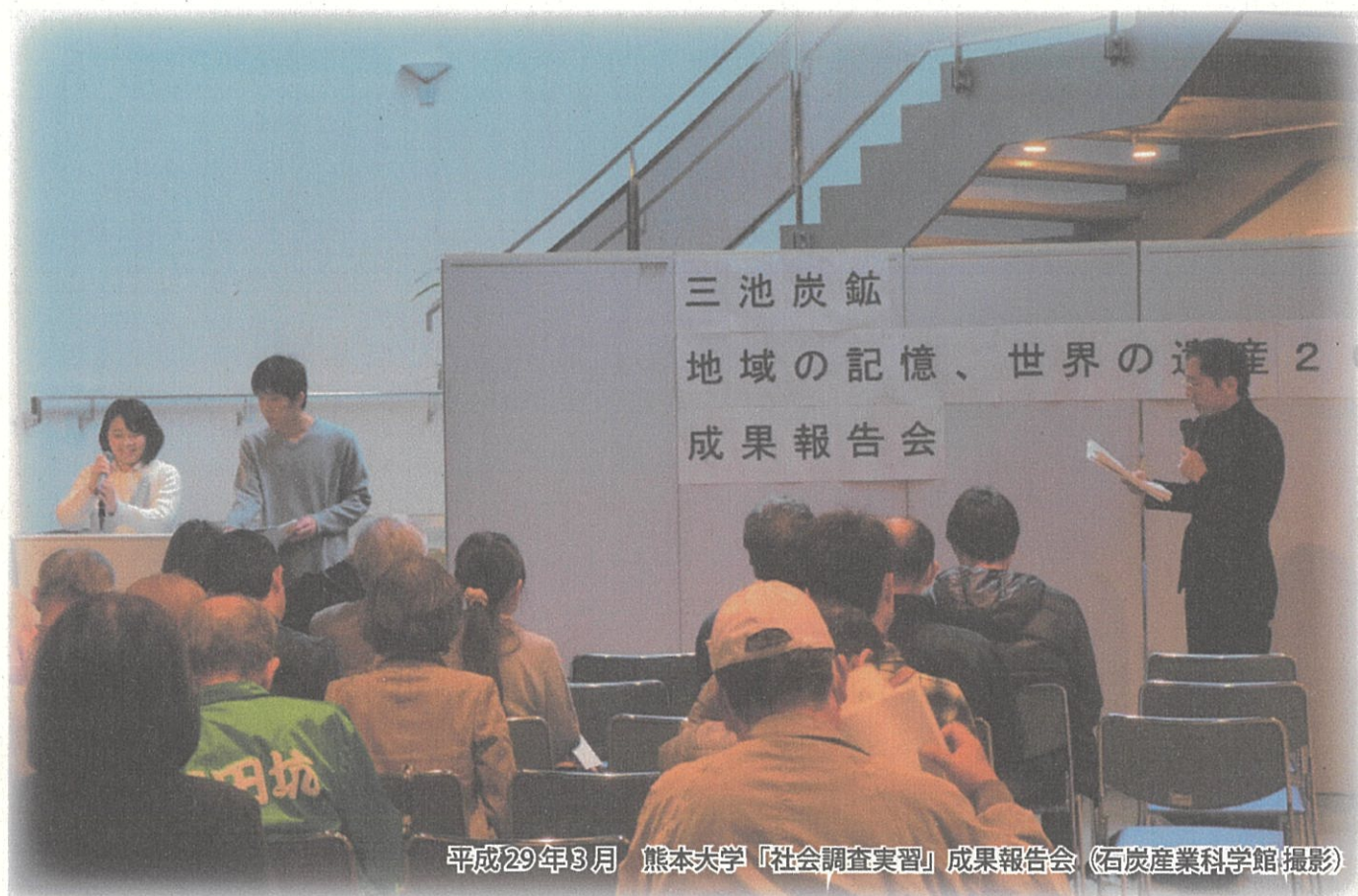


令和5年度 三池炭鉱 掘り出し物語 第2回

フィールドワークから見る 三池炭鉱の世界



平成29年3月 熊本大学「社会調査実習」成果報告会 (石炭産業科学館撮影)

—紡がれた記憶から見えてくるものとは?—

今から150年前、三池炭鉱は明治政府の官営事業として本格的に始まり、近代日本の発展に大きく貢献してきました。他方で、負の遺産とも呼ばれる出来事が暗い影を落としてもきました。さまざまな歴史を刻んできた炭鉱が閉山してから、すでに四半世紀が経ちました。

今日、その歴史は地域の人々にどのように記憶されているのでしょうか。ユネスコ世界遺産登録の前と後とでは、どのような変化があったのでしょうか。

令和5年度 掘り出し物語 第2回は、過去10年以上にわたり、学生とともにフィールドワーク調査を行ってきた松浦雄介さんに、大牟田・荒尾の人々にとっての三池炭鉱の記憶についてお話しいただきます。

令和5年 **10月21日(土)**

14:00 ~ 15:30 (開場 13:30)

会場: 大牟田市石炭産業科学館
オリエンテーション室

講師: **松浦 雄介** (熊本大学人文社会科学部教授)



《プロフィール》

1973 (昭和48) 年生まれ。
専門は社会学。
2003年に熊本大学に着任、2010年頃から大牟田・荒尾に継続的に通い、三池炭鉱の社会学的調査を行う。
主な業績に「記憶と文化遺産のあいだ—三池炭鉱の産業遺産化をめぐる—」『西日本社会学会年報』11、2013年など。

【主催】

NPO法人
大牟田・荒尾炭鉱のまちファンクラブ
大牟田市石炭産業科学館

大牟田市
石炭産業科学館

〒836-0037 福岡県大牟田市岬町6-23
TEL:0944-53-2377 FAX:0944-53-2340